

「とちぎの子ども育成憲章」の実践

活動名	NPO 法人 とちぎ生涯学習研究会主催 親子で育もう どんぐりから苗木1本県民運動		
年月日	平成23年8月27日(土)	場所	宇都宮大学/宇都宮共和大学
参加者	子ども、保護者、若者	人数	50人

関連する憲章の条文

子どもたちとのかかわりを深め 思いやりの心をはぐくみます
とちぎの豊かな自然 伝統 文化を守り 子どもたちに引き継ぎます

(実践の内容)

「どんぐりから苗木1本県民運動」とは、世界規模で問題となっている環境破壊や環境保全をテーマに、これからの時代を担う子どもや若者に生きる力を育むべく考案した家庭および地域で取り組む生涯学習活動です。この運動は、世界遺産を有する日光市足尾近隣の山々から拾ってきたどんぐりを自らの手で苗木に育て(3~4年)、それを再び日光市足尾の山に戻す活動「循環型植樹」と言えます。

教科書にも登場する日光市足尾の歴史に端を発し、「ひとが生きるため、生かされるため」にどのような行動が必要なのかを自らの体験を通し検証することが目的です。

2010年の秋に同研究会スタッフが林野庁関東森林管理局の許可を貰い日光市の国有林に分け入り固有種の種子(ミズナラのどんぐり)を採取しました。



採取した種子(どんぐり)を発芽させ、10センチほどに成育した苗を2011年8月27日に栃木県内外の子ども達と共に植え替える作業を行います。植え替えた苗木には、同研究会スタッフ指導のもと、子ども達自ら手作りで作ったネームプレートを取り付け、苗木の植え替え作業を完了。この植え替え作業では、作業場近隣の山林(地主の許可を貰い)に分け入り自然林の苗木成長過程の学習やカブトムシ、クワガタなどの昆虫採集も行います。



苗木に付けるネームプレートに子ども達の名前を刻むことで、責任感や自尊心、協調性などを育み親子で協力し合いながら苗木のお世話をしてもらいます。次回のどんぐり採取は2011年10月初旬です。(毎年、春夏秋のイベントも多数開催。参照 HP : http://www.geocities.jp/npo_lsst/index.htm)

また、「どんぐりから苗木1本県民運動」にご参加いただいた子ども達の中から、「どんぐりサポーター」を募集し、どんぐり通信の企画編集をボランティアで担っていただきます。どんぐり通信では、どんぐりから苗木になるまでの成長過程のレポート、地域の情報や各学校などで行われている環境学習の取り組みなどを取材。子ども目線での情報や意見などを公開し、どんぐりサポーターにメールマガジンにて発信の予定です。



※私どもの団体では環境保全活動の導入に際し、県内の小中学校にて講演会を承っております。詳細については気軽にお問合せください。

(「宇大 NPO」あるいは「とちぎ生涯学習研究会」で検索ください。)



「どんぐりと人間の成長過程について」

生きる力・生かされる力



生かされる力・生きる力



どんぐりは、様々な困難を経験しながら成長していきます。こうした成長過程は人間にも通じるものがあります。家族が一丸となってどんぐりを育て（承認）、個々の責任において（責任）、どんぐりの世話をし（仕事）、成長する姿を家族で喜び合い（成長）、共に育った苗木を植樹する姿（達成）は、子供の成長過程を家族全員で応援し、育て上げる姿と一緒に、どんぐりを育てることで家族の絆が深まり、家族全員が心身ともに成長していく姿（昇進）を表しております。家族での協働作業は、家族の絆を深めるだけでなく、厳しい社会の中で生きていくための知恵や経験を積む予行練習にもなります。この活動を通して、働くことの大切さや責任感、達成感を感じ、様々な困難を乗り越え社会に貢献できる人材育成へとつながっていくことを期待します。